

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第65回本部会議 記録

日 時／令和3年7月15日（木）

17:04～17:30

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第65回本部会議を開催いたします。

まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。

主な指標の状況ですけれども、道独自の警戒ステージですが、昨日時点で全道では病床使用数、重症者用の病床使用数以外の指標で前の週を上回っておりまして、札幌市については、重症者病床と感染経路不明割合を除きまして、前の週を上回っているという状況で、全体的に増加傾向が見られるという状況になっています。

引き続き、国の分科会提言で示されております新たな指標についてですが、昨日現在で全道では、感染経路不明割合を除く指標で、ステージⅢの目安を下回っております。札幌市については、入院率及び感染経路不明割合を除く指標で、ステージⅢの目安を下回っているという状況です。

全道の感染状況です。先週より増加しておりまして、昨日までの直近1週間でみますと、人口10万人当たり7.8人、リンクなしの割合ですけれども、上昇が続いておりまして、50.5%となっております。なお、本日の新規感染者数ですが、85名で、人口10万人当たり8.3人という状況です。

続いて、札幌市の状況です。昨日時点で10万人当たり14.0人、リンクなしの割合は、56.6%と高い水準となっております。また、本日の新規感染者数ですが、64人でありまして、人口10万人当たりでは、15を超えて15.2人となっております。

新規感染者数を札幌市と札幌市以外と分けてみておりますけれども、足下ご覧いただいでわかりますとおり、それぞれで増加傾向にあるという状況です。

地域別の感染状況ですけれども、振興局別に先週と比較いたしますと、札幌市や上川振興局管内など多くの振興局におきまして、増加傾向にあるという状況になっています。

発症日別での新規感染者数ですけれども、減少傾向であったところが、足下、これについても増加傾向にあるという状況になっています。

年代別の推移でございます。20代・30代の割合が高くなってございまして、昨日時点で40.7%となっております。これに10代の割合を含めると、ほぼ半分の割合を占めるという状況です。地域別に見た年代別の感染者の割合ですけれども、特に札幌市では、30代以下の割合が高く、おおよそ6割という状況が続いているという状況です。

続いて、監視体制です。検査数ですけれども、直近1週間で、15,963件、陽性率は2.6%ですが、これについても足下で増加傾向になっているという状況です。

医療提供体制の状況です。全道の入院患者数は減少が続いておりましたが、足下

では横ばいの傾向になっていまして、昨日時点で277人という状況です。また、重症者の病床についても、11人という状況となっています。

集団感染の発生状況です。今月ですけれども、昨日までの時点で、事業所等の割合が高いという状況と、医療施設と福祉施設では発生していないということが特徴的な状況かと思えます。札幌市、札幌市以外で分けてみた1週間ごとの状況ですけれども、直近1週間で、また増加傾向が見て取れるかと思えます。

続いて、ワクチンの接種状況です。7月13日現在の高齢者向けの接種状況ですけれども、1回目の接種をされた方が70.6%。2回目の接種を終了した方は40.8%となっています。高齢者人口区分別の1回目のワクチンの接種率についてですけれども、引き続き、人口規模の小さい市町村では接種率が高いという状況です。一方で、人口の多い自治体は、接種率が低いという状況ではありますけれども、ご覧いただいておりますとおり、7月7日時点と比較いたしますと、特に人口が多い自治体での接種率が急激に伸びているということですが、VRSへの入力が進みつつある状況ということが考えられると思えます。

続いて、接種回数ですけれども、7月13日までの直近1週間におけます高齢者向けワクチンの接種回数ですけれども、約26万回となっております。1日平均にしますと、約3万7千回ということになります。高齢者接種が進捗して、接種が終了している市町村が出てきていることもありまして、下のグラフにありますとおり、高齢者向けのワクチンの1週間ごとの平均の回数ですけれども、先週に比べて約3千回減って、3万7千回というふうになっております。

その他のワクチンの接種状況ですけれども、まず一つ目にありますとおり、高齢者向け接種の状況についてですけれども、VRSの実績が反映されるまで、一定の時間を要することを踏まえまして、現時点で正確な状況を把握することは難しいですけれども、多くの市町村で80%を超えるということもありまして、順調に進捗しているのではないかと考えております。また、道のワクチン接種センターでの集団接種については、第4週の予約状況ですけれども、予約率が74.1%となっております。

ワクチンの供給状況についてお示ししているグラフになります。7月12日に国から示されました第11クールでの道全体への配分量ですけれども、436箱ということで、前の週の第10クールの372箱に比べまして、若干の増加傾向はありますけれども、第12クールについては、全国の配分でも第11クールと同じような配分数の傾向が見込まれまして、市町村が希望しております量に比べれば、それよりは少ない量しか供給できないのではないかと、今後とも厳しい状況が続くものと想定しております。

続いて、デルタ株の検査状況です。7月14日までに1,625件の検査を実施し、疑い事例の数は、87件となっております。また、1週間ごとの検査陽性率ですけれども、急速に増加しております、直近の週で見ますと34.9%という状況です。

続いて、人出の状況です。札幌駅周辺の人出の状況ですけれども、日中は横ばいの状況、夜間はやや増加傾向が継続しているということです。また、すすきの駅周辺の人出についても、札幌駅周辺とほぼ同様の傾向で、特に夜間で増えておりまして、まん延防止等重点措置前と比較いたしますと約5割の増加となっており、注視が必要な状況となっております。

最後に総評です。感染状況ですけれども、全道の新規感染者数は、先週今週比が9日連続の増加となるなど、増加傾向が続いている。札幌市においては、感染経路不明割合や若年層割合が高い水準にある中、新規感染者数の増加が続いている。また、札幌市以外の地域では、事業所や学校での集団感染の影響により、感染者数が増加した地域が見られると

いう状況です。

デルタ株です。道内のデルタ株は、87例となり、感染者の行動歴として、道外との往来歴や来道者との接触歴が確認されている一方、こうした行動歴のない感染者も増えておりまして、デルタ株による市中感染も懸念される状況にある。

医療提供体制です。全道、札幌市内とも、入院患者数、療養者数は、再び増加しているという状況です。

ワクチンですが、65歳以上の高齢者への接種は、7月13日現在、1回目70.6%、2回目40.8%が終了したという状況です。

今後の対策です。全道において、新規感染者の増加傾向が続いておりまして、特にデルタ株が急速に増加しておりますことから、警戒レベルをあげ、感染防止対策の徹底に取り組んでまいります。特に札幌市内においては、札幌市と連携して、感染防止対策のより一層の徹底を図ってまいります。今後の人の往来の活発化を見据え、沖縄県や東京都などとの往来を極力控えることについて、より一層の徹底を図ってまいります。

また、北海道や旅に興味を有している首都圏在住の方に対し、来道の際の感染防止対策や体調管理の徹底について、直接発信するほか、国において実施する羽田空港等におけます搭乗前モニタリング検査について、国と連携して積極的な活用を働きかけることとしております。なお、この関係で本日、道のホームページを更新いたしまして、羽田空港等での検査に関するホームページのリンクを貼っておりますので、お知らせいたします。

ワクチン接種についてですが、安定供給等について国に緊急要請を行いながら、市町村へのきめ細かな支援を行うなど、希望する方が一日も早く接種を終えることができるよう取り組んでまいります。

資料1の説明は以上です。引き続き、資料2をご覧くださいと思います。道内の感染状況等について、専門家及び有識者のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせしております。

有識者、専門家の方々からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますけれども、主な意見についてご紹介いたしますと、(1-①) 次の波をいかに小さくするかが重要。札幌から全道各地に波及させないため、札幌の感染を抑えるべき。若い世代へできるだけ早くワクチン接種をお願いする。市民は自粛生活に疲れているが、今一度、感染対策の徹底を呼びかけてほしいといったご意見や、これは市町村・関係団体からのご意見ですけれども、(2-①) 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されていても人出が減少せず、むしろ増加している状況を踏まえ、対策の効果をしっかり検証するべきといったご意見が寄せられております。こうしたご意見については、今後の対策に活かしてまいりたいと考えております。

私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして、札幌市の感染状況についてご説明をいたします。

では、次のスライドをお願いします。新規感染者の1週間の合計についてでございますが、昨日7月14日時点で274人となってございます。本日の1日の感染者数が64人でしたので、

人口10万当たりでは15.2と、国のステージⅢの指標であります15人を超えている状況となっております。また、黒い棒グラフのリンクなしのところにつきましては、昨日時点での割合が50.8%と5割を超えている状況となっております。市内のデルタ株疑い事例につきましては、昨日まで46例と増加しており、今後の感染再拡大とデルタ株の市中へのさらなる広がりが懸念されているところでございます。

では、次のスライドをご覧ください。札幌市民の入院患者数の状況のグラフでございます。入院患者数は100名を切って下回る水準まで減少したところでございますが、昨日時点で106名と、新規感染者数の増加に伴いまして、再び100名を上回る水準となっております。重症患者数は赤の折れ線グラフでございますが、10人を下回るレベルまで下がってきております。今後の感染拡大に向けて医療機関の負荷を抑えるためにも、医療提供体制の整備を継続して進めてまいります。

それでは、次のスライドをご覧ください。検査の数でございます。直近1週間の検査数でございますが、7,564件であり、陽性率につきましては、昨日の7月14日時点で3.6%と、直近では増加傾向が見られておりますけれども、札幌市が目標とします5%は下回っている状況でございます。デルタ株のスクリーニング検査の実施率でございますが、左の肩のところにありますけれども、7月10日までの1週間で全陽性検体の77.5%まで達しているところでございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。年齢別の感染者の割合でございますが、高齢者の割合に減少が見られる一方で、20代の割合が全体の約3割、それから30代・40代を含めると、全体の約7割を占めていることから、行動範囲の広い若年層からの感染拡大に注意が必要な状況となっております。

次のスライドをご覧ください。新規感染者の感染経路について、次のスライドで説明いたします。集団感染事例の発生もありまして、職場を感染経路とする事例が割合、件数とも大きく増加している状況でございます。

では、次のスライドをご覧ください。これは集団感染事例のスライドでございますが、2週間程度新たな事例の発生が抑えられていたところでございますが、今週に入りまして職場での集団感染事例が続けて発生している状況でございます。感染力の強いとされるデルタ株の市中への広がりを抑え込むためにも、幅広い検査と疫学調査を実施しているところでございます。

それでは次のスライドをご覧ください。札幌市内の中心部、札幌駅、それから大通駅、すすきの駅周辺の朝9時時点の人出については、ゴールデンウィーク特別対策期間が始まった4月下旬ごろの水準にまで戻ってきているところであり、直近につきましては、横ばいの傾向でございます。

それでは最後のスライドをご覧ください。このスライドは夜8時の時点の人出の状況でございますが、直近では人出の増加傾向が見られておりまして、まん延防止等重点措置が解除された7月12日以降は、飲食店の営業時間が午後9時まで、酒類の提供時間が午後8時までと、これまでよりもそれぞれ1時間緩和されていることから、今後も夜間帯における人出の増加と、人と人との接触機会の増加が見込まれると考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部・振興局等から、順次、発言をお願いします。

まずは、観光振興監からお願いします。

【山崎観光振興監】

私の方から新しい旅のスタイルについて、ご報告させていただきます。

新しい旅のスタイルは、利用者の皆様と事業者の方々の双方に感染防止対策を徹底いただくモデル事業として、本年4月2日から5月15日の期間で実施しました。5月16日からは、本道に緊急事態宣言が適用され、全道域で外出自粛要請が行われたことから、事業を一時停止しているところでございます。

今般、夏休みやお盆など夏の観光シーズンを迎えるにあたり、新しい旅のスタイルを活用し、感染防止対策を徹底する取組について、有識者、専門家等にご意見を伺いましたので、それについてご報告させていただきます。

新しい旅のスタイルの事業趣旨につきましては、皆様から賛同いただいたところでございます。ただ、再開の時期につきましては、できるだけ早く再開すべきという意見があった一方で、デルタ株の感染者の増加など、札幌を中心とした感染の拡大傾向を踏まえまして、4連休以降とすべきというご意見や慎重に検討すべきというご意見もあったところでございます。

今後、感染状況について慎重にモニタリングを行うとともに、講じられる感染対策の措置やそれらとリンクする本事業の停止条件などを踏まえまして、再開時期について慎重に検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

知事から何かございますか。

【本部長（知事）】

新しい旅のスタイルについて、早速、有識者・専門家の方に意見を聞いていただいたということではありますが、現在の感染状況なども踏まえてしっかり検討していただきたいと思っております。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、留萌振興局長、お願いします。

【宇野留萌振興局長】

資料4をご覧くださいと思います。

初めに留萌管内における感染状況に関して、ご説明申し上げます。留萌管内では、人の移動が活発になりましたゴールデンウィーク以降に感染者が急増いたしまして、2件のクラスターが発生いたしました。その後は散発的に感染者が発生しておりますが、いずれも経路不明となっております。

管内では気温の上昇とともに、今週から管外や道外のナンバーの車、バイクが急増しております。また、石狩・上川・空知方面からの海水浴、キャンプなど、7月、8月の連休とお盆に集中することが予想されております。資料にお付けしておりますが、参考までに昨年の管内を代表いたします留萌ゴールデンビーチの資料を添付しております。多くのグループ客で混雑していたところでございます。

振興局では、こうした地域の状況やデルタ株の広がりなどを踏まえまして、今夏の人流

の抑制、感染の再拡大防止に向けまして、管内市町村が一丸となって各種対策を展開していくこととしております。

まず、海水浴場についてでございますが、感染再拡大防止を第一に考えまして、全市町村長と協議を行ったところ、管内が統一した取組が必要との考えに至りまして、管内全ての海水浴場7ヶ所について、残念ですが開設を中止したところでございます。開設の中止に伴いまして、無断遊泳や路上駐車などが想定されますことから、テトラポットなどのバリケードの設置や市長、町村会長、振興局長連名によりまして、各警察署長へのパトロールの強化要請を直接行ったところでございます。また、振興局や市町村職員による広報車での巡回を集中的に強化いたしまして、一層の感染防止対策を徹底的に呼びかけることとしております。

また、前回の本部会議の指示を受けまして、夏の再拡大防止特別対策といたしまして、市町村長と振興局長の連名による共同メッセージを発出し、基本的な感染対策の徹底はもとより、野外のバーベキューなど屋外でも感染事例があることを例示しながら、地域の夏の事情に配慮した注意喚起を実施してまいりる考えでございます。振興局といたしましては、引き続き、管内市町村や関係機関、マスメディア等と連携しながら、感染の再拡大防止に向けた取組を推進してまいります。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局からございませんか。
なければ、本部長からお願いいたします

【本部長（知事）】

本日の新規感染者数85人と、1週間の合計が先週比で10日間連続で増加をするということなど、リバウンドの傾向が強まっております。また、本日、札幌市の新規感染者数が人口10万人当たり15人という数字を超えました。

特に感染性が強いとされるデルタ株の疑い事例が急速に増加をしている、このことに強い危機感を覚えております。既に道外との往来歴や来道者との接触歴がない方の感染も確認をされ始めまして、市中での広がり強く懸念をされます。

道としては、今後、デルタ株の置き換わりが進むことを前提に、これまで以上に警戒のレベルをあげて、対策に取り組むことが重要であります。各本部員においては、道民の皆様に対し、マスクの着用など、基本的な感染防止対策の更なる徹底について、市町村や関係団体と連携をして、協力を求めてください。

また、大型連休やお盆など夏休みシーズンを迎え、東京都など感染が拡大している地域との往来について、道民の皆様に対して、慎重な検討をお願いをすることはもとより、来道を検討される方々の協力も必要です。東京都、本日の新規感染者数1,308人ということですが、東京都や沖縄県といった緊急事態宣言の地域などは、住民の皆様に対して、他の地域への感染拡大を防止をする観点から、都道府県間の移動は極力控えるとされています。

こうした中で、7月20日から羽田空港等において、来道者の方に対する無料の搭乗前モニタリング検査、これが開始されることになりました。首都圏等の方々が、都道府県間の移動は極力控えるとされているわけですが、どうしても来道せざるを得ないという場合には、羽田空港などにおいて検査を受けていただくことなど、道外から来道される皆様に対

して、様々な機会を活用して、積極的に協力を求めていく必要があります。

全道の感染拡大を防ぐためにも、札幌市での対策が重要であります。国の専門家からも、新規感染者数が増加に転じる動きが見られ、夜間滞留人口の増加など、リバウンドが懸念されると指摘をされております。デルタ株の拡大、そして今後の人の移動の活発化などを踏まえ、感染拡大に最大限の警戒が必要であります。札幌市と連携をして、現在の対策を徹底をする、このことともに、感染状況を慎重にモニタリングをし、まん延防止等重点措置の国への要請も含めて、より強い対策について、早急に検討を進めるように指示をいたします。

最後にワクチンの接種についてであります。昨日、上京いたしまして、菅総理にもこのワクチンの供給、スケジュールなど速やかに適時、適切にお伝えを頂きたい旨、直接要望をしてまいりました。ワクチンは、感染予防効果を示唆する報告もございます。その円滑な接種が重要であります。引き続き、国の供給スケジュールなどの把握に努めながら、市町村をしっかりとサポートして、道内において円滑な接種が進むよう取り組んでください。私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示があったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第65回本部会議を終了いたします。

(了)